

## はじめに

愛西市は、平成17年4月1日に佐屋町、立田村、八開村および佐織町が合併して誕生した新しい市です。新市のまちづくりの指針となる建設計画では、「人と緑が織りなす 環境文化都市 愛西」をまちづくりのテーマに掲げ、水や緑などの豊かな自然の中で、市民の皆様が豊かな心を育みながら、『愛』にあふれる生活を送ることができる快適環境都市の形成を目指しています。

「きらり☆あいさい21(愛西市健康日本21計画)」は、そうした生活を送る上で重要となる『健康を実現する』ために、健康づくりの行動計画として策定しました。

健康づくりは市民一人ひとりに直接かかわる課題ですが、愛西市においても、市民の死亡原因の約6割が、「がん、心疾患、脳血管疾患」で占められており、これらの疾患を引き起こす原因である生活習慣病が問題になっています。また、全国的な傾向でもある少子・高齢社会は本市でも進展しており、高齢者を支える方々の負担の増加が懸念されています。

本計画では、このような状況を踏まえて、子どもから高齢者にいたるまですべての市民が健康づくりに取り組むため、優先課題ごとに市民自らの取り組み、行政、関係機関・団体の取り組みの方針を示すとともに、具体的な改善目標を数値で示しています。また、策定にあたっては、多くの市民の皆様にご協力いただいた健康に関する意識調査や市民参加で開催した愛西市健康日本21計画策定委員会および作業部会で市民、関係者の方々から‘きらり’と光る貴重なご意見をいただきましたので、その多くを計画づくりに反映させています。

今後は、この計画を市民の皆様とともに推進してまいりたいと思いますので、計画の趣旨をご理解いただき、健康づくりの実現に向けて、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、本計画の策定にご尽力いただきましたすべての皆様に厚くお礼申し上げます。



平成19年3月 愛西市長 八木 忠 男



健康日本21計画は、国が21世紀に向けた新しい健康づくり計画として平成12年にスタートしました。それを受けて、この度、愛西市の健康づくり計画「きらり☆あいさい21(愛西市健康日本21計画)」が完成しました。

この計画は、平成17年に佐屋町、立田村、八開村、佐織町の2町2村の地区が合併して愛西市となったことから、新たに策定した平成19年度から平成22年度までの4年間の健康づくり計画です。

また、本計画は、今までのように行政が策定して市民に示すのではなく、市民が主体となって行政と一緒に策定した画期的な計画です。

合併前の地区には、健康状況や死亡率などそれぞれの問題点の特徴があり、それらを統合して健康課題を出したり、解決策を考えたりすることは最初、困難だと思われました。しかし、各地区から市民の方が参加して計画づくりに協力していただき、議論し、まとめていく作業過程を通じて、問題点の背景にあるお互いの地区やそこに住んでいる人々の生活や健康行動を理解し知ることが計画づくりを推進する大きな原動力となりました。

私個人としても、この地区がレンコンやトマトなどの産地であること、その出荷時期の農家の方々は睡眠時間が2～3時間であることを知り、睡眠の質へのアドバイスが可能になったことなど、市民の生活を理解することの重要性を実感しました。

今回の愛西市の計画の特徴は、一言で言えば、計画の内容がより現実的実践的であることです。いつ、だれが、どこでどのように活動するか、評価をどうするかが体系的に示されており、目標に向かって具体的に推進できる計画になっています。例えば、他の市町村計画だと、目標や目標値が設定してあっても、“健康まつりで何かイベントを開催して、それが健康日本21の何かと結びついていこう。”となるのですが、愛西市の場合は、既に計画の中に健康まつりが予定されていて、その中の行事がそれぞれの領域の目標に対応しているということです。この特徴は、旧佐織町の健康日本21計画である「さおりにこにこプラン」の計画実施を通じて、経験知を活かしたものです。

本計画のねらいは、健康でいつまでも住みやすい愛西市を目指しています。生活習慣が良い健康習慣へ変わるためには、本人の自覚や努力はもちろんですが周りの家族、地域、職場、環境などの関わりが重要です。「できることから始める」を合い言葉に、地域のみんなで協力して「きらり☆あいさい21(愛西市健康日本21計画)」推進活動を進めていきましょう。皆様一人ひとりが、住みやすい愛西市をつくっていくことの取り組みを期待しています。

平成19年3月 浜松医科大学医学部看護学科教授  
愛西市健康日本21計画策定委員会委員長  
愛西市健康日本21計画策定作業部会指導者

巽 あさみ